



Patient Information Sheet (Japanese) 患者向け情報シート

Contrast Enema 注腸造影検査

1. 注腸造影検査とは何ですか？

注腸造影検査はバリウムやガストログラフィン®などの造影剤（以前はX線染料と呼ばれた）を使用して大腸（結腸）を観察する検査です。

2. 不快感はありますか、麻酔は必要ですか？

肛門にチューブを挿入してバルーンを膨らませる時に不快感を感じることがあります。検査中に膨満感と軽い腹痛を感じることがありますが、これは正常です。

時には腹痛の不快感を和らげるために筋弛緩薬を投与することがあります。

この検査で麻酔は必要ありません。

3. 検査前の準備

医療画像科が検査前の準備方法を患者に指示します。

- 腸検査準備キット。正確で完全な検査を行うため、事前に腸の中を完全に空にしなければなりません。
- 妊娠中または妊娠の可能性のある場合はスタッフにお知らせ願います。

4. 検査中

潤滑剤を塗った小さなチューブを肛門から少し奥へ慎重に挿入します。チューブの先についた小さなバルーンを膨らませ、チューブがその位置から動かないようにし、造影剤が漏れないようにします。

造影剤をチューブから大腸へゆっくりと注入します。時には空気もチューブを通して大腸へ加えることがあります。X線写真を撮影します。

チューブから大腸内の造影剤を排出させます（できるだけ多く）。

チューブを肛門から外します。

5. 検査後

検査後はトイレに行くことができます。検査後数日間便が白く見えることがありますが、これは正常です。

便秘と脱水症状を防ぐために、検査後数日間たくさん水を飲むよう心がけてください。

6. この特定の検査に伴うリスクは何ですか？

この検査では以下を含むリスクと合併症を伴うことがあります、それらに限定されるわけではありません。

よくあるリスクと合併症は以下を含みます。

- 便秘、余分に水分をとり下剤を飲むことで改善することができます。
- 下痢とそれによる脱水症状、余分に水分をとることで改善することができます。

たまにあるリスクと合併症は以下を含みます。

- 医学的および／または技術的理由のため検査の実施が不可能なことがあります。

まれにあるリスクと合併症は以下を含みます。

- X線透視による生涯のがんリスク増大。
- 大腸の穿孔。抗生物質と手術が必要になることがあります。
- 大腸からの出血。その他の処置および／または修復手術が必要になることがあります。
- 菌血症（血液の感染）。抗生物質が必要になります。
- 造影剤に対するアレルギー反応として、発疹、じんましん、かゆみ、吐き気、失神、息切れが起こることがあります。この軽減のために薬を与えることがあります。
- この検査の結果として死亡することは極めてまれです。

7. 病院を出た後の注意点は何か？

もし気分が悪くなった場合、または以下が生じた場合は、もよりの救急救命センターまたは一般開業医へ行ってください。

- 排便または排尿の問題
- 腹部を押すと痛い、および／または硬い
- 激しい腹痛が続く
- 肛門からの出血（1/2カップ以上の血液量）
- 発熱

医師／医療関係者と相談する事柄のメモ:

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



**Queensland
Government**

PATIENT INFORMATION SHEET ONLY

NO DOCUMENTED CONSENT REQUIRED

Unless patient is renal impaired

If a documented consent is required
Interpreter Services *must* be accessed